日本産業衛生学会東海地方会活動の更なる飛躍のために

谷川 淳

日本産業衛生学会の役員選挙が終わり、新理事長に涩谷栄治先生が選出され、新理事、代議員の選出が行われています。

東海地方会におきましては、私が地方会長に再選され、理事長に小林博雄先生、代議員の中村先生と私が選出されました。また、60人の代議員が選出され、地方会理事を兼任しております。

今回の役員改選において、前地方会会長・全国理事の竹内勝彦先生が理事長を辞しました。先生には、東海地方会長および日本産業衛生学会全国理事として長年にわたり地方会活動に貢献していただきました。また、日本産業衛生学会副理事長をはじめとして、全国レベルでも学会活動のリーダー役を果たしていただきました。そうしたご功績を受け、日本産業衛生学会東海地方会名誉会長に就任頂くことをお願いいたします。私どものお礼をござわらせて頂きましたので、今年度の地方会総会で地方会理事の承認と合わせ提案し、承認して頂く予定となっております。しかし、いわゆる“楽屋内”的な名誉会長ではなく、東海地方会活動を支えて頂くactiveな名誉会長として、地方会活動を支えて頂きたいと思っています。

私が地方会長に就任しました2002年以来、東海地方会は、第13回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会、第8回産業衛生技術部会、第17回日本産業衛生学会総会をはじめ、多くの全国規模の集会を企画して参りました。いずれの集会も成功裏に開催することができております。これも、岩田隆先生、白田多佳夫先生、土屋高知子先生をはじめとして、会の企画・運営にご尽力頂いた地方会会員の皆様のおかげです。と感謝しております。

地方会レベルで取り組むべき大きな会合を3つ主催する機会があったことは、地方会員が協力し結局を実現するという機会になったと思います。しかしながら、行事予定に関わらず、地方会会員活動がおろそかになってしまったのではないかという心配もあります。これらの点を踏まえ、来年度は地方会がお世話をおすることを念じて行事を実施することにしました。地方会の事務局は、地方会活動の推進に尽力することを念頭に置いております。

「東海地方会の活動支援策」、「東海地域における産業衛生活動推進策」、「東海地方会の地域貢献策」、「全国規模での学会活動への貢献策」などをキーワードとして、地方会活動の方向性を検討してみたいと思っております。皆様の積極的な活動参加を期待しております。
第19回産業医・産業看護職・衛生管理担当者のための研修会

はじめに

寺澤 哲郎（U F J 銀行名古屋健康管理センター）

昨年名古屋で産業衛生学会総会を開催した関係で、2年後の同様の開催を賛成しています。この研修会の辞職者数287名と、もはや同様の数に達していないことからも、弊社の参加者は急増していることが判明しました。研修会の構成は見解4題として、up to date な話題を取り上げたもので、本講演はいずれも内容の豊かで大変興味深いものであるもので、反響も大きく、充実した研修会にすることが可能であったと思っています。レベルの高い内容をわかりやすくお示しいただいた講師の先生、座長の先生方をはじめ、手順で企画・準備を手助けされた企画運営委員の先生方にお礼申し上げると共に、多数のご参加者様に御礼申し上げます。翻って、報告をいただきます。

プログラム

日 時 2006年2月25日（金）10:00～16:45
会 場 ウィスール【愛知県女性総合センター】大会議室
〒461—0016 名古屋市東区上膳町1
－午後の部－
開会の挨拶・オリエンテーション
日本産業衛生学会大阪地方会会長 井谷 徹
日本産業衛生学会東北地方会部長 寺澤 哲郎
講演「サプライメントー手元の使い方と落下し穴ー」
愛知医科大学医学部情報学 助教授 安藤 裕明
座長 静岡県総合保健福祉総合事務所 青山 京子
講演「行動科学に基づいた健康指導の手法と実際」
大阪府立健康科学センター 健康推進推進部長 中村 正和
座長 聖隷健診センター 武藤 繁貴
－午後の部－
講演「夜眠労働体験と労働衛生管理」
労働科学研究所 常務理事 酒井 一博
座長 名古屋市立大学大学院 教授 井谷 徹
講演「お酒をひきだす糖尿病予防活動」
あいち健康の森健康科学総合センター 指導課長 柳下 一代
座長 五箇労働衛生コンサルタント事務所 五藤 雅博
閉会の挨拶

「サプライメントー手元の使い方と落下し穴ー」を聴いて

青山 京子
（静岡県総合保健福祉総合事務所）
サプライメントーは、今後の健康ブームと、不確かな接点のお洩れと、忙しい労働者の生活という条件の中で、関心が非常に高まっています。効果に対する疑問や、安全性について不安を感じる産業保健職員のどのように考えれば良いのかを安藤裕明先生（愛知医科大学医学部情報学）から基本的な考え方と、正しい使用法に関して指示に富むご説解をいただきました。
2004年の調査（U H P)によれば、すでに、サプライメントーが日本人の社会生活の中で、明らかに認識されるようになっている現状にあるということが示されました。
サプライメントーは、「健康に有益だと思われる食品中の成分を、効率よく摂取しやすいように加工したものです。自分の判断で購入・使用できるという反面、過剰摂取やアレルギーの問題に加え、医薬品成分や未承認薬品の摂取、科学的根拠のない商品をイメージののみで販売するなどさまざまな問題点もあることが指摘されました。
長期摂取の場合の安全性について保障はなく、新たな情報を入手し、呼応する必要があることをリノール酸の過剰摂取によるアレルギー反応の危険や免疫抑制剤の例などを説明されました。
過剰摂取による健康被害や相関性を疑問にした場合には「サプライメントーカット」とある。摂取量は、適切の人が、1日の食事で、実際の食事内容に含まれる食品で食事することができるように、摂取量を超えない範囲である。「食事の遵守とともに、時に摂取を休止し、メーカー－ブランドを時々変えた体調を振る返る」は、まさに摂取の見解です。
さらに、免疫刺激が目的とするサプライメントーを使う場合でも、体力や基本的な栄養素の摂取が十分でないと、免疫刺激効果が期待できないことなど、いずれにしても栄養の整った食事を輪にした食生活が重要であることを労働者があ-knowingするよう、サプライメントーを通じて伝えることの大切さを知ることができました。

清水美千子（聖隷健診センター）
私はこの研修会に参加し、中村先生の講演にうたた。中村先生の講演の中で、Prochaskaの行動変容のステージモデルに基づいた、クライアントへの支援についての内容がとても印象に残っています。変容過程は、無関心期・
「夜勤交代勤務と労働衛生」を聴いて
加藤 保夫
（岐阜県産業保健センター）

労働科学研究所の吉井先生の講話では、夜勤交代勤務の話に入る前に、まず昨今の労働形態の多様化が急速に進むなか、ワークルートとして安全衛生の観点がどこまで配慮されているかについて問題提起がなされた。労働形態（リスク、街頭職、非社員化、作業形態、過重労働）の時間のないものに、職場ストレス、17.5化が厳しさを増すなか、社会のニーズ（医療、福祉、政策等の24時間化社会）と相まって夜勤交代制の管理は重要性を増している。特に夜勤労働の評価については、雇用労働について触れてきた。夜勤労働は、過労による、健康の問題がある反面、休息により元に戻る可能性も持ち合わせている。しかし労働者個人の1日は24時間しかない。残業時間が増えると自由時間は減り、睡眠時間短縮は疲労回復を阻害し、健康状態を悪化することによる労災をもたらすことが予防されるように要され、夜勤労働のリスクを単に安全面だけでなく、健康面も生活面リスクも合わせた複合リスクであることが強調された。つまり休憩の間でリラクゼーションも有効である。夜勤のリスクを理解し、労働者の体のための休憩を設けることが必要である。
全国理事に選出されて

小林 章雄（愛知医大・医・衛生）

日本産業衛生学会東海地方会に、学識・経験ともにわが学会にリードするような、優れた方々が多数おられることで、今回、全国理事に選出されたことは、たいへん光栄であり、また、貴重なものと考えております。学会の一層の発展のために、点ほぐ心意気がたいと思います。

第1は、学術の拡張です。研究の発展と知見の集積が産業衛生の現場の実践に根拠を与え、課題を解決するための基盤となること、いうまでもありません。それとともに、研究の推進がますます新たな価値の創造や、研究がパラダイムのインナラックな転換などは、産業衛生活動の充実にまた、欠かせざる常態であると確信しております。会員の方々が、それぞれの領域で自由発想に、動きあがりながら大いに活躍していただけるよう、力を尽くしたいと思います。

第2は教育・研究・情報伝達の充実です。近年、メンタルヘルスや過労解雇対策など、産業保健スタッフはもとより、人事・労務担当者、事業者までを幅広く対象とした教育・研修・情報伝達の充実が求められる課題に増しています。また、医師の雇用の状況に関するプログラム「地域保健・医療におけるプライマリケアとしての産業保健の研修など」、専門家としての全般的な職域の向上が求められています。そのためには、企画的動向とも連動し、わが国産業の特徴とその多様性に立ち向かった教育・研修・情報伝達の充実を図る必要があります。東海地方は幅広い産業構造、企業規模、人材を有しており、多くの切口から取り組み、わが国における諸活動の重要性を考慮するものと考えております。この地方の多様な取り組みが基盤として、教育・研修・情報伝達の充実に取り組みと存じます。

第3は、会員相互のサポートの向上です。医師部3年生のある学生から「互いに競争的な関係にある業界の産業保健スタッフ同士は、仲がいいのか、悪いのか？」「なぜ？」という質問を受けました。単に顔を合わせる機会が多くて仲がいいということではなく、産業衛生における学びの発展と実践活動の充実という、高い専門性にもとづく共通の目標に沿って、具体的に互いに支えあう活動とその成果こそが、おそらく読者たる貴方を惹くものと考えます。この東海地方会に常に励ましをもって育まれつつあがっている何ものかを、いつそう信頼に発展させるべきということまでもありません。それに同時に、情報共有化の基盤とツールが著しく発展している今日、県のレベルや、一地方会の枠組みを超えて、会員相互のサポートが強く求められるよう、心がけたい存じます。

最後になりましたが、困難な時代を新たに学びをもって生きた医の先輩、高野長英の「学術の奥深く、鮮味ある指導」を鉄として、気風におかげに、全力を挙げ取り組んで参りたいと思いまので、ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

急変する産業現場と産業衛生学会の
果たすべき役割

斎藤 政彦（大同特殊鋼）

ご存知のように、東海地方は製造業の大集団地として多くの企業が事業場を設け、その中で産業医や産業看護師、あるいは産業衛生技術職として多くの方々が活躍しております。我々が身を置く産業保健というフィールドは、法律によって活動が規定されているという特徴があります。ただ、この法律は通常、最低必要条件を保証するという性格のもので、より過酷な労働環境を目指すことに我々産業保健従事者の真の目標があります。そのため、我々の活動が必然的に妥当であることが重要です。よくエビデンスに基づいた産業保健（EBOH: Evidence Based Occupational Health）という言葉を耳にします。法律と向き合いながらも、同時に医学としての妥当性に裏付けられた活動を実践することが大切と考えます。しかし、現状の抱える医療問題は多岐にわたり、業種ごと、企業ごと、さらには事業場ごとで異なり、その上そこには独特の風土があり、それを踏まえた上で活動しないことはないものという強い一角があります。業界で働く産業保健従事者の数は限られ、相談相手に乏しく、これでいいのだろうか、こんな場合どうしたら良いだろうか、どういう疑問が常に常につき回ります。そういった疑問や不安に答えることができる学会の重要な役割の一つと理解しています。現場の産業保健従事者が自信を持ってその職にあたることをサポートする学術的パブリックグローブが産業衛生学会であると考えています。また同時に、坐下していなければならず、現場の実体験に基づいてエビデンスを積み重ねることも重要ではないでしょう。自分での活動をしっかりと振り返り、それが正しかったかどうかを検証し、そしてそれをエビデンスとして持ち、研修交流を通じて、次の実践その成果を生かしていく、そういう場としてこそ真に価値のある産業衛生学会といえます。

一企業終身雇用、年功序列といった日本固有のシステムの崩壊が話題に上るようになって既に久しく、安定性が失われたことによる将来への不安や、効率を追求した結果過労労働が、人々の健康を奪い、労働者の身心両面の健康を支える産業保健従事者の果たす役割は今後ますます大きくなくなっていくと考えられます。労働安全衛生法が過労労働やメンタルヘルス対策活動の方向へ改訂され、また一方で、個人情報保護法が施行に移され、健康情報の管理という面でもより重い責任が求められる状況にあります。グローバル化を受け変わって急速に変化する産業界に引きずられると読む、産業保健に携わる方々の仕事は、質的変化し、かつ量的に増えていきます。産業衛生学は典型的な実学であり、現場で労働者の健康管理に役立って初めて実りある学問といえます。このような変化に対応すべく現場の実践者に役立つ方向へ学会を発展させていくことが重要である役割に心を向けている。
2005年4月1日に個人情報の保護に関する法が全面施行されたためを受け、国の定める医学研究分野の倫理指針（ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針7）、医療研究に関する倫理指針7）が改正された。さらに、産業保健の分野では、雇用管理に関する個人情報の適正な取扱いを確保するため、事業者が講ずべき措置に関する指針9）、雇用管理に関する個人情報のうち職務情報を取扱うに当たっての留意事項9）、労働者の健康情報の保護に関する検討会報告書9）が出されている。

雇用管理に関する個人情報のうち健康情報を取扱うに当たっての留意事項9）では、健康情報を「指針に定める雇用管理に関する個人情報のうち、健康診断の結果、病歴、その他の健康に関するものをいう」と定義している。具体的には、例えば、

(1) 産業医が労働者の健康管理等を通じて得た情報
(2) 労働安全衛生法（昭和47年法律第37号）に「管理」という。第56条の2第1項の規定に基づき、事業者が作業環境製造の結果の評価に基づいて、労働者の健康管理を保持するためであるとして講ずべき措置を実施した健康診断の結果
(3) 保健法第66条の1項から第4項までの規定に基づき事業者が実施した健康診断の結果従来の作業環境製造の結果の評価に基づいて、労働者の健康管理を保持するためであるとして講ずべき措置を実施した健康診断の結果
(4) 保健法第66条の4及び第66条の5第1項の規定に基づき事業者が医療等から聴取した意見及び事業者が講ずべき措置を実施した健康診断実施後の措置の内容
(5) 保健法第66条の7の規定に基づき、事業者が実施した保健指導の内容
(6) 保健法第66条第1項の規定に基づく健康保持増進措置（THP：トータルヘルスプロモーション・プラン）を通じて事業者が取得した健康診断の結果、健康診断の内容等
(7) 労働者災害補償保険法（昭和22年法律第30号）第27条の規定に基づき、労働者から提出された二次健康診断の結果
(8) 健康保険組合等が実施した健康診断等の事業を通じて事業者が取得した情報
(9) 受診記録、診断名等の療養の給付に関する情報
(10) 事業者が医療機関から取得した診断書等の診療に関する情報
(11) 労働者から欠勤の際に提出された疾病に関する情報
(12) その他、これらに基づく個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン10）に基づき取扱われ、また、健康保険組合においては「健康保険組合等における個人情報の適正な取扱いのため
シリーズ 産業衛生に携わって

産業衛生学とつき合って60年

井上 俊（名古屋大学名誉教授）
昭和18年9月、名大医学部を卒業。来戦いよいらしい最中であったが、この年に大学院特別研究者という、兵役免除、助手並の給料支給という制度が出来て、遂に選んだ研究者として衛生学教室に居られるという指示が来た。しかし、誇りを聴いても学問的な魅力を感じなかった衛生学には何故、そこで図書館に飛び込んで、衛生学の学問的本質は何かを勉強した結果、環境を課題に取り組んだ素養が乏しい人間学であると思い、真剣に取り組む決意がいた。産業衛生の橋渡し型研究が教授に与えられたテーマは「職業病の研究」であった。熱心な助教教授や先輩達の指導を受け、各種工場を調べると共に、研究室ではラジオオプティメーターと手動計算器を駆使して、豚年当番で環境評価、健康評価、両者の関連関係の評価方法の確立に打ち込んだ。

然し、昭和30年3月、名大医学部は米国機の破壊爆撃を受けて全焼。私は命だけは助かったが、研究データは全滅した。

教室は戦後の道場小学校に移動、戦間年の3年間に至る戦前の教室施設で施業者の衛生管理に取組む程度、主に小学校の健康管理、体力測定に主に主事していた。昭和28年科学教室に創立されて私は助教授になったため、近くに松本大学（後倉倉州大）を担当する衛生学教室がオープンする。ここでも体制を変更した体育学に主に主事をなすが、松本助教授が長唄に求めた健康診断（新冠前症）の調査、温水で井の中矢素による現状をの疫学校調査に共に努力した。

昭和31年9月、廃堤教授退官の後を経けて名大教授に就任した。

名大には社会医学学系の講座が衛生学以外に予防医学、公衆衛生学と二次増加、大夫が衛生対象を分けてさらに、衛生対策の発展を素得できる指導力を持つことが出来た。又ファイドが増しい。そして、三教室で話し合い、臨床のカリキュラムのボリュースに相当する実習時間まで、各種の実験学習、社会学習を行うことを試みた。これが学生に大変好評で、環境衛生講座、産業衛生を担当する衛生学教室への入学者が年々増加する。教学の集団で教授から新入生まで自由に発表し、民主的な学びが風尚の中で共同研究が進められた。

石油化学工業の発展の中で、先づベンゾール中毒特徴診断を積極的講習し、その診断基準を示す上で、日本人工業者血液生化学調査会で私が委員長となって、5年がかりで全国調査のデータを集めた。ビンシングルクレアチニン酸「世田谷研究」との実施は、この医療機関が、大変今後も高価評価を受け、臨床外来を訪れることの中にも職業病患者は現れる。この場合に個々の治療だけでは済ますべきではないという山下信雄助教授（後に公衆衛生学教授）の主張から結核病との話し合いの場も持てるようになった。動振障害に於ける彼の業績は素晴らしいものである。

昭和37年名大医学部文部官、中庸大学でつとめただが研究からは離れ、専ら衛生学原論、健康論の講義に終始した。

同時、10数年間の労働衛生基礎講座で中小企業経営者、労働者に労働衛生の講義を続け、こんなに熱心に聴いてくれるとは思わなかったので、講義のやり甲斐を感じた。

自分の健康は自分で守るべきだ、そのため、各自の生活環境に適した健康保持論を身につけさせる努力が衛生学者に必要であると考える。

そこでこのようなことを述べた私は自ら30才、私にとって如何に生きるかは、如何に死ぬかに等しいと考え努力しております。

「見えないリスク」

上原 正道（プラザ工業）

東海地方の皆さん、はじめまして。昨年の6月よりプラザ工業の産業医をしております。上原と申します。「産業衛生に携わって」というテーマで座談会に観閲を重ねてきましたが、今後はこうしてお互いに深く話し合う機会を重ねてまいりたいと思います。こういった機会を持つことは、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えていますが、私自身も学びの機会と深く考えております。
第9回職域肺疾患管理研究会

谷脇 弘茂（藤田保健大・医・衛生）

平成17年2月26日（土）14:00～16:30に、第9回職域肺疾患管理研究会が名古屋市外務省会館2階大会議室で開催されました。参加者は61名で、内容は以下の通りです。

1. 小森和彦（名古屋市）
2. 辻田正夫（藤田保健大）
3. 谷脇弘茂（藤田保健大）
4. 高橋信明（東京医科歯科）
5. 鈴木泰明（名古屋市）

これらの諸事項予定

1）愛知労災大肺疾患保教セミナー
日時：5月18日（水）14:00～16:00
テーマ：職場における肺疾患の管理
講者：田中貞夫、鈴木泰明

2）第3回地域肺癌ストレレス研究会
日時：6月5日（火）14:00～16:00
テーマ：職業性不快度低減の効果
講者：小林正夫、田中貞夫

3）平成17年度日本産業衛生学会東部地方会総会及びシンポジウム
日時：2005年6月25日（土）10:00～16:30
場所：名古屋大学医学部 医科会館
会員の異動

(2004.11.1〜2005.3.31)

入会
愛知県前田薬局(名古屋市南区)から

退会
愛知県前田薬局(名古屋市南区)から

編集後記

先日、家族で東京ディズニーリゾートへ行ってきました。そこで気づかったのが、園内、ホテル、あらゆる場所でのスタッフの対応でした。あらゆるスタッフと接して、私たちが何を求めていたのか、何を求められているのか、何を求められているのかを、私たちが何を求められているのかを、何を求められているのかを、何を求められているのかを、何を求められているのかを、何を求められているのかを考え出すことが大切です。